



STORIES OF ELEVEN CHILDREN

金沢エルデの会の親たちの振り返り記



STORIES OF ELEVEN CHILDREN

金沢エルデの会の親たちの振り返り記

CONTENTS

この冊子をお読みになる方へ	1
金沢エルデの会 ディレクター 金沢大学 教育学部教授 大井 学	
STORY▶A	3
聞くことが苦手…	
STORY▶B	7
状況を読むことが苦手…	
STORY▶C	11
言いたいことを言葉でうまく説明できない…	
STORY▶D	15
情報をうまく取り入れられないので…	
STORY▶E	19
ジェスチャーや表情で表現していた…	
STORY▶F	23
二つ以上のことを同時に考えることが苦手…	
STORY▶G	25
100回書いても覚えられない英単語…	
STORY▶H	31
長いお話を聞いて理解することが苦手…	
STORY▶I	35
言いたいことがすぐ出てこず…	
STORY▶J	39
読み書きに困難を抱え…	
STORY▶K	43
話を聞くこと、読み書き、算数にとても困難を抱え…	

あとがき

この冊子をご利用になる方へ

この冊子をお読みになる方へ

金沢エルデの会 ディレクター

大井 学 (金沢大学 教育学部教授)

この振り返り記をお読みになる方の多くは、3歳くらいまでに言葉が遅い、落ち着きがない、対人関係がうまく取れないなど、発達に少し気になるところがみられた小さいお子さんの親御さんでしょう。

振り返り記に登場する子どもたちの幼少期には、言葉の遅れ、多動で迷子になる、運動が下手、内気すぎる、文字への早すぎる興味、特定のものを恐れたり強い関心をもったりする、パニックやかんしゃくを起こしやすい、同年代の子どもになじめないなど、さまざまな特徴がみられています。

こうした特徴イコール学習障害というわけではありませんが、これらのうちの2、3の特徴を示した子どもたちが、大きくなって学習障害があると診断されることになっているのも事実です。

また、中にはアスペルガー症候群という診断を受けているお子さんもおいでです。しかし彼らに読み書きや計算に代表される学習面の困難がみられることは明らかですし、社会性の面での困難も典型的なアスペルガー症候群の子どもたちとはかなり姿が違っているというのが、親御さんや子どもをよく知る支援者のいつわらざる実感です。

発達障害のいくつかのタイプはこのように複雑に入り組んで現れてくる場合もあります。私たち専門家に求められていることは、長期的な視野と幅広い観察に基づいて、そのお子さんの特徴の本質を見抜き、必要な支援を提供していくことです。

その際、親御さんたちは私たち専門家のよきパートナーとして、お子さんの理解のために非常に重要な役割を果たします。親御さんのなげない気づきや心配の中こそ、子ども理解の大切な鍵が隠されているのです。その鍵で彼らの豊かな世界への扉を開くお手伝いを専門家としてさせていただければ大変幸いです。



この冊子の子ども達に似たところがある…

発達が気になる小さいお子さんをおもちの親御さんたちに申し上げたいことは次のとおりです。

- 1) お子さんの発達特徴に関する親としての気づきはとても大切です。
- 2) 気づきはお子さんの得意な面を豊かに育て、不得意な面を上手に助け、むやみにつつまわささない、かしこい子育てのスタートラインです。
- 3) 小さい頃の発達の偏りが4, 5歳ころまでに解消するお子さんもいますが、改善はしても5歳以降も残るお子さんがいます。後者の中に学習障害 (LD) に発展するケースが含まれます。
- 4) 5歳を過ぎてもことばや行動、対人関係の面で気になる点がある（あるいは担任の先生が気にしている）場合は、専門家に相談され、お子さんの特徴を十分理解した上で就学に臨まれることをおすすめします。
- 5) 就学後は勉強や仲間関係、学校生活への適応などについて適切に配慮できるよう、遠慮なく関係者の連携・協力を求めてください。
- 6) 適切な配慮のもとに学校時代を過ごすことができれば、お子さんは個性豊かな社会人へと成長できることと思います。

STORY▶A

Aさんは聞くことが苦手。言いたいことを状況にぴったり合う言葉で表現できなかったり、友達の言うことを勘違いしてしまったり、人間関係でとても苦労をしている。



episode 1

2,3歳の頃は、スーパーに行ってもすぐどこかに行ってしまうので、必ず見張り番が必要でした。おばあちゃんと一緒に来てもらうことが多かった。

子どもの走り回るのが早くておばあちゃんが追いかけれない場合は、母にボタンタッチ、歩きつかれて自販機で飲み物を購入して飲む間はおばあちゃんがみる、というふうに連携しないと買い物ができなかった。



1へのコメント

スーパーなどいろんな物があったり広い場所だったりすると、目に入ったものにつられて、お母さんから勝手に離れてあちこち動き回る。LDのお子さんには、そんなADHD（注意欠陥多動性障害）の特徴を併せ持つお子さんも多い。Aさんの場合、5歳頃になると多動であったと信じてもらえないほど落ち着いていた。

episode 2

4歳ごろは、冬になって雪が降るまで、お気に入りのキティーちゃんの絵のTシャツと花柄のフレアスカートしか着なかった。雪が降って寒くなると、赤いジャンパーと赤いチェックのスカートをいつも着ていた。



2へのコメント

かわいらしい色や絵のイメージでお気に入りになるのだが、気に入り方が極端。変化への抵抗や「げんかつぎ」から全身で拒絶する感じの自閉症の人たちの衣服の限定、こだわりとは違う。

episode 3

幼稚園ではクラスではなく職員室のソファで過ごし行事にはなかなか参加できなかった。お泊り体験は、当時好きだったテレビアニメ「クレヨンしんちゃん」がお泊り体験の話題であったために、「銭湯」へ行くのを楽しみに参加できた。

episode 4

年長の頃、テレビアニメ「サザエさん」で家族でハワイ旅行をするのを見たときに「ハワイに行こう」と言い出し、行けないと伝えたと、「どうしても行く」と言って暴れて困った。



3,4へのコメント

テレビのワンシーンという限られた情報から物事を判断してしまう。周囲の状況を読み取りがちなLDの人にとって、テレビは客観的に人と人の関係性や生活状況を理解しやすくしてくれるアイテムのひとつ。

STORY▶Mother A

多動と言葉の遅れ

特別問題もなく生まれ、運動面の発達もよく、ニコニコと笑う表情豊かな我が子も、歩くのが上手になったころから勝手にはだしで家から出て行ってしまい、飽きるまで外を小走りする日々が続きました。水たまりで立ち止まったと思ったら、20分くらいはそこで遊び、無理につれて帰ろうとすると暴れるので仕方なく付き合う羽目に。

やっとなつて帰ったと思ったら、ほんの数分でまた出て行ってしまふ。このころは何とか事故に合わせないように追いかけるので精一杯でした。

言葉の遅れに気がついたのも、3歳児健診で指摘をされて。オーバーではなく、気がつく暇がなかったのです。

「1歳数ヶ月の言語能力です」「お母さんの言葉掛けが大切です」それが3歳児健診で言われた言葉でした。まわりからは「親の躰が悪い」といわれ、「この子は何者なの？」と一人大きな不安を抱えるこの時期は、つらかったなあ。

障害との出会い

知り合いの人から子ども相談センター（現在の幼児相談室：以下同じ）を勧められて自分で電話をし、通わせてもらえるようにしました。通い始めたころちょうど巡回の先生に診ていただく機会があり、真っ先に「私の躰が悪かったんでしょうか？」と聞きました。すると先生は「躰でこんな子はできません」とおっしゃいました。「わたしのせいではなかった」とわかったことで、気が楽になりました。また、遅れが障害なら、どんなサポートが必要なのか知りたいと思いました。

パニックは悪いことなの？

パニックもうちの子の特徴のひとつです。ちょっとしたことが原因で泣き叫び、物を壊す我が子。怒り出すと辞典のような重い本も人を目掛けて投げつけることもありました。「これを今許したら躰ができない」と親心は揺れるのです。でも「それは火に油を注ぐようなもの。そのうち収まるので、そばで様子を見ながら待てばいい」と先生の助言。それと、「パニックは、周りはおろおろするけれど表現の一つ」とも知

りました。知ることでずい分安心できました。

小学校高学年になった今では子ども自身、自分の障害を知り、少しずつですが将来のことも話し始めています。

Q&A

Q パニックになったときには、「様子を見ている」だけで良いのですか？

A パニックの最中は、「～はダメ！」というような注意をするとかえってパニックがひどくなり長引きます。そんな時はうちの場合は、気持ちが収まるまで様子を見て、興奮状態が収まり、落ち着いたころを見計らって、してはいけないことの注意をしていました。

こんなことがありました。ちょっとした姉とのケンカで図鑑を姉のおでこにぶつけてしまいました。その瞬間はパニックの真っ最中で、きつく叱るとパニックがもっとひどくなると思ったので、とりあえず、姉をガードしながらも力づくでやめさせることはやめて怪我のないように、興奮が収まるまで待ちました。

ものの5分くらいでしょうか？落ち着いたころ、姉のおでこの傷を見せながら「重いものを投げると人にけがをさせることがあるよ。でも、どうしても投げたいときは、ぬいぐるみのような軽いものを、人がいないところに投げよう」と話したら、姉に素直に「ごめん」と謝りました。それ以来、投げそうになるときは一呼吸置いたりするようになり、大きなけがになるようなことにはなっていません。

パニックの最中は、どんな正しい話をして、受け付けられない状態なんだなと思っています。だからといって「放ったままでよい」ということではないと思います。その子なりに納得するポイントがあるもので、それを模索していくことが大事だと感じています。

STORY▶B

Bさんは気持ちを表現したり状況を読むことが苦手。強い口調を怒られたと勘違いしたり被害妄想的になり学校では毎日泣いていた。



episode 1

1歳過ぎからフォークが大好きで、3歳頃までたくさんコレクションしていた。他にも時計、ストロー、旗、酒蓋などいろいろ集めた。ことばが遅かったBが初めて言ったことばが、時計を指して「くわた〜」だった。時計は大きくなった今も大好きだが、小学3年生頃には集めるのはやめた。駐車場のバーや信号機、標識も好きで小学生の頃よく自転車で出かけて見に行っていた。



1へのコメント

これらは、自閉症の人に見られる「こだわり」と似通っているが、Bさんは興味が時計や標識に限定されていたわけではなく、他にもいろんな物事に興味を示していたし、友達や大人との対人的な要素の濃いゲームも楽しんでいた。自閉症の人の興味の限局や奇妙な行動の儀式性とは性質が異なるようだ。

episode 2

不器用で絵や工作はとても苦手だが、漢字が得意でとても正確に書く。

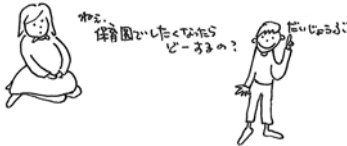
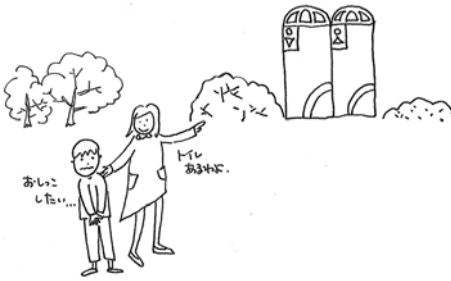


2へのコメント

LDの中に、難しい漢字もよく覚えるタイプの人もある。
学校で漢字を習うとき、しつこくハネ、ハライなど「正しく書く」ことを強いられるものだが、その影響もあって(?)きまじめにとりくむ。

episode 3

暗い穴がとても怖いものに見えるようで、自宅や祖母の家以外のトイレに入らなかった。洗面所の穴も嫌で歯磨きは台所で。「説明は出来ないけどなんか怖い」と言う。



3 へのコメント

頭で大丈夫と理解できても、なんとなく怖い物は怖い。友達がするのを見たり「サンタさんが見てるよ」という声かけてトイレができるようになった。不審が伴うイメージは、なんらかのきっかけで乗り越えることができたようだ。

episode 4

「アイスランドが怖い。」と言う。



4 へのコメント

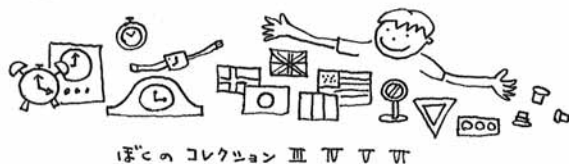
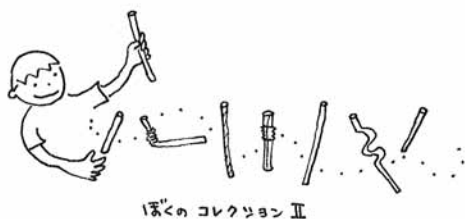
アイスランドでいつも噴火があるわけではなく、普通に人が暮らしているという事に気づけないのは、オーストラリアのカンタス航空でないと乗らないとパニックになる自閉症の人に似通っているが、自閉症の人は確率論的に物事を見ていて、説明をすると妙に納得してくれるが、Bさんののもっと感情的で噴火のイメージそのものの恐ろしさに焦点がある。

STORY▶Mother B

動きの悪さと言葉の遅れ

特別何の問題もなく生まれた、待望の長男。寝返りがひどく遅く（6. 7ヶ月位）歩いたのも、1歳5ヶ月。しかし、当時長男はとても太っていたので、周りはそのせいだと言っていました。歩き始めてからも、なんだか、ひどく運動神経が悪いように思えました。私はこの頃から何となくこの子は普通と違うのではないか？とっていました。これといった理由はいまでも説明できませんが、言葉が遅かったのも理由のひとつではあったと思います。

そこで、一歳半健診で"言葉がでない"と申し（当時発語は「パパ」のみ、しかも父親を指してのパパではありませんでした）別室で発達検査を受けたところ、やはり言葉が遅いとのことで子ども相談センターを紹介されて通い始めました。



この子って何？

うちの子は、多動だとかパニックだとかということはなかったもので、特に困ることはなかったものの、同じ年齢の子をつれた友だちと集まっても、うちの子だけ遊べない。

友だちどころかおもちゃにもほとんど興味を示さず私にくっついていたような気がします。そのような場では石橋を叩いて、叩いて、叩いて、それでも渡れないような、ひどく内気な子だったのです。

しかし、そうかと思えば近所のスーパーでは一人であちこち動き回り、いなくなっ

たので、あおくなって探してみると本人は楽しそうにお店にあった滑り台で一人で遊んでいたこともありました。また、ストローやフォークをコレクションする、トイレは自宅以外は入れない、というようなちょっと変わった子ではありました。そうかと思えば、小さいときからひらがな、カタカナ、アルファベットなど読んだり、書いたりでき、それを見た祖父母などから「頭の良い子や」と言われたりもしていました。

このように、何だかおかしいけどどこがおかしいのかわからない。ただの個性なのか、障害なのかわからない。相談センターに通いながらも、すでに診断名がでている子たちとは、また違うような気がしていました。

スタートラインに立てたとき

4歳頃のことです。言語相談の先生に「何だか普通と違うみたいだが、なにがおかしいのかはわからない」と正直に相談しました。すると返ってきた答えは「そうですね」という一言。私は「こんなあやふやな感覚でも専門家に相談できるんだ」という安心感を覚えました。

そして、検査をした結果は、言語性のLD。それでやっと私は、やっぱりこの子のおかしさは障害にあったんだ。じゃあこれから、この子の為に何をすればいいんだろう・・・と考えるスタートラインに立てた気がしたのです。

STORY▷C

言いたいことを言葉でうまく説明できないCさんはいくつか自分なりに表現するパフォーマンスのレパートリーを持っている。自分のできるところとできないところをはっきり自覚している。



episode 1

気に入らないとランドセルを背負ったまま、道の真ん中で大の字になって寝てしまう。

幼稚園での活動中や食事時間中、突然泣き出したりパニックになったりするため、周囲の人はどうして泣いているのか、理解するのに苦労した。



1へのコメント

言葉でうまく表現できないので、すぐ反応してもらえたり嫌なことを回避するのに効果的な方法としてパフォーマンスをつかう。わからないこと、対処できないことがあると頭が真っ白になるそう。

小学校でも「ぶっころしてやる〜」などと言って先生やクラスメイトを威嚇してなんとか言いたいことを聞いてもらおうとする。そうしないとなかなか聞いてもらえないから。

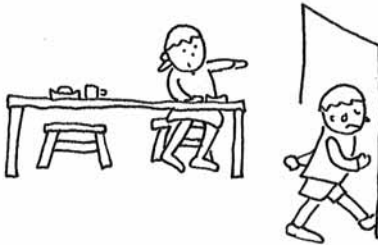
給食の時間、突然泣き出す△



部屋の外に置いてある机の下に
もぐり大泣き△



こわいよ～ こわいよ～
もぐりダダ～ だ～
..



よくよく聞いて



玉ねぎが嫌いということだた。
..

episode 2

食べることが大好き。ホットケーキミックスを使ったお料理が得意。



2 へのコメント

料理は、作業工程がステップになっており、ゴールもはっきりしているので取り組みやすい。出来上がっていく過程が見え、目的意識も持ちやすい。料理という枠組みがあると、苦手なことも取り組んだりする。できあがったおいしい料理を食べて達成感も得られやすい。

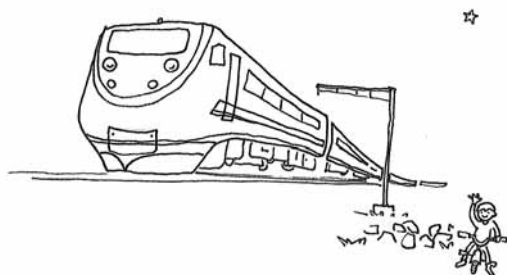
STORY▶Mother C

手のかからない子に落とし穴？

特に問題なく生まれ、子育ても男三人となると多少の発達の遅れがあっても気にせず1歳半健診を迎えた。その頃はまだ言葉やオウム返しもなくバイバイやチョウダイなどのジェスチャーもなかった。特に人見知りはなかったが人と関わる行動はなかった。

健診では「様子を見ましょう」という返事、それでも保健師さんは心配になったのか子育て支援の親子教室を勧められ半年程通った。相変わらず言葉や人との関わりはなく、一人遊びでいつもコロコロと転がるおもちゃで遊んでいた。

兄とも喧嘩をしないし、公園へ行っても乳母車で寝ている。起きている時はブランコで遊んでいる、と全く楽な子どもだった。でもそれが大きな落とし穴！2歳になっても相変わらずマイペース母はのんきにしていた。時々読み聞かせをしても、どこかへ行ってしまおうし、こんなもんかと思っていた。この頃から父の影響で電車をよく見に行き始め、電車に興味を持ち始めた。絵本というより電車の写真集などを見ながらニコニコしていた。もちろんおもちゃも電車。



大好きな電車はどれだけ見ても飽きない。わからない話ばかりで授業がつまらなくなっても、時々電車の絵を描いてなんとか過ごす。

3才になっても相変わらず…さすがに少し気になり始めた母。健診の時は積極的に相談、ここでようやく医者にかかり、耳鼻科では「滲出性中耳炎」と診断。先生には「よくまあこんなになるまではよかったですね」と言われ、これが治れば言葉がでると思っていた。言語外来にも通いその時は親の愛情不足で済まされ夫にも怒られ散々だった。中耳炎は完治し、言語外来に通っても改善せず、悶々としたまま保健師さんに相談

したところ、子ども相談センターを勧められ、言語外来はやめて、そちらに通い始めた。センターでは、子育ての悩みをよく聞いてもらった。

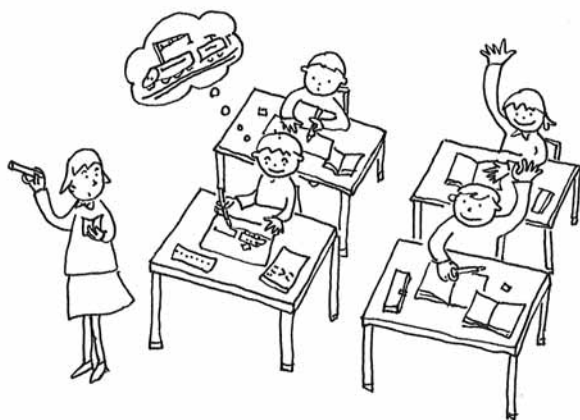
そうこうしているうちに4歳になり、興味は2歳から変わらず一人遊びがほとんど。言葉も2～3歳程度で、親が気づかないとトイレも怪しい。「幼稚園は無理だろう」と思っていた。でも相談したところ、「そろそろ子ども同士（幼稚園）の方が刺激があつてよい」と言われ園を探した。

障害との出会いでもラッキーな出会い

たまたま近所に我が子でも受け入れてもらえる幼稚園が見つかり、子ども相談センターに相談したところ、大賛成！年少の途中から入園し楽しく通った。

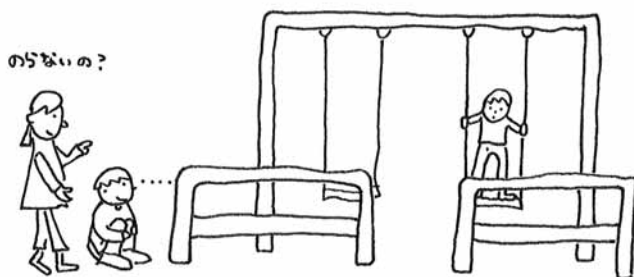
ここで園の先生からクリニックを紹介され、やっと発達障害があることがわかり、前向きに考える事ができた。今思えばこの幼稚園に入園してからの人との出会いが今の私と子どもを支えている。

現在4年生。クラスのトラブルメーカーである事には間違いない。授業中大きな声で騒ぐ、体育の時間は脱走する、挙げればきりが無い。でも私達親子を支えてくれる人達がいる。このラッキーな出会いを大切にしたいと思っている。



STORY▷D

情報をうまく取り入れられないので、物事は全て、自分の興味のあるものから、わかるところからとらえて理解する。



episode 1

電車が見える公園では、遊具でも遊ばず友達とも遊ばず、電車が通るたびに「ライチョウー」「しらさぎー」と電車の名前を見えなくなるまで連呼し、ひとりでニコニコ満足していた。

ピ-!
が-タン
が-タン が-タン
ゴ-ットン !!.....



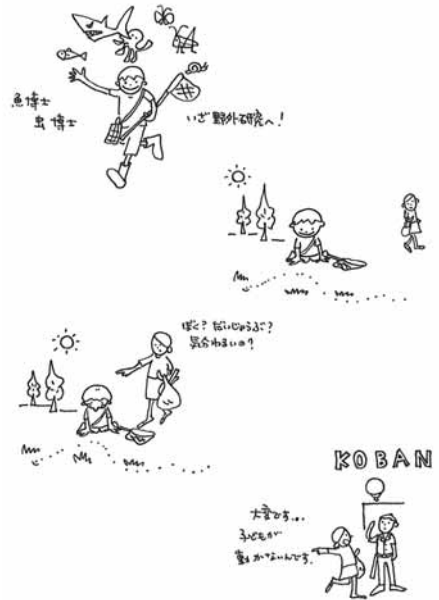
1 へのコメント

周囲の友達と興味やテンポが合わず、マイペースに遊ぶ子もいる。

また、自閉症の人の電車への興味はもっと「とりつかれた感じ」だが、Dさんの場合は電車にとても親近感を持っている、という感じだ。

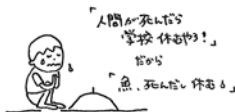
episode 2

虫や魚が大好きで、知識も豊富。炎天下の中、長靴を履いて網を持って近所の公園で熱心にありの観察をしていた。あまりにじっとしているので、通りがかりのおばさんが、気分を悪くしたのかと心配し声をかけてくれても本人は気づかず返事をしなかった。「これは大変!」とおばさんが近くの交番に知らせてくれておまわりさんが駆けつけた。



2 へのコメント

興味のあるものへの集中力はすごい。Cさんは、文字も虫の図鑑で覚え、算数の文章題も生物が登場するとスラスラ解ける。好きなこと、興味のあること、よく知っていること、体験したこと、身近なことは、イメージがつきやすく理解もしやすい。



episode 3

飼っていた大好きなうなぎが逃げてパニックになる。死んでしまうと、ショックで休んだことのないエルデの会の活動をお休みした。

3 へのコメント

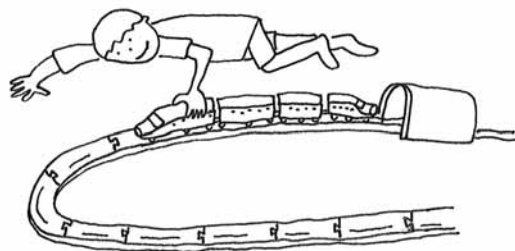
大事なベツトは大事な家族。物事の優先順位や客観的な評価を総合して考えるのではなく、本人なりにとらえた情報から、本人なりの常識で判断する。自閉症の人の突拍子もない常識とは違い、周囲にとって気持ちはわからないでもない常識である。

STORY▶Mother D

手のかからない子

息子は赤ん坊の頃は手がかかりませんでした。今思うと大人しいというか、色々な物にあまり関心をしめさなかった子でした。おもちゃもこちらが揺らしたりすると多少は興味を持つけれど、目の前にあってすらせても自分から手を出す事はほとんどしませんでした。物だけではなくすぐ下にできた弟にもほとんど関心がなかった様でひがみとも全くありませんでした。母親の私の事も息子にとってどんな存在だったのだろう。1歳にやっと立ち歩き始め、単語ながらテレビやビデオのキャラクターの名前をよく口にするようになりました。その頃から公園に行きだしたんですがブランコには乗らずにブランコの周りの柵を行ったり来たり目で追いながら遊んでいました。

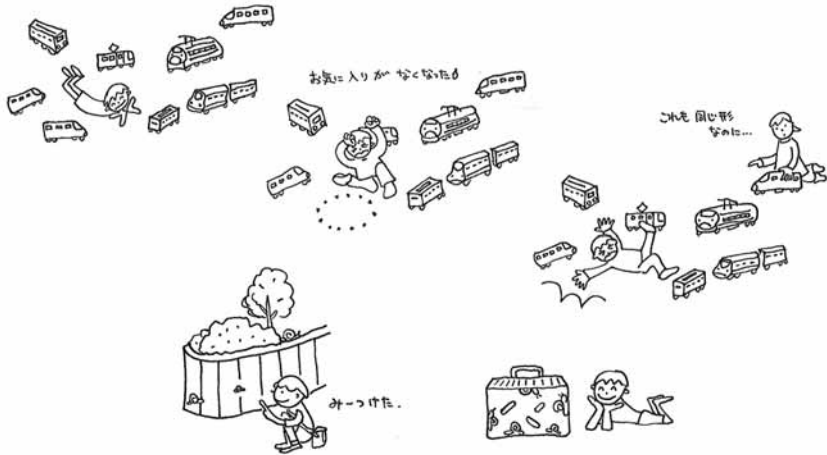
不思議な行動だったけれど、私には面白く思えて気にはなりません。電車の見える公園で、友達とは遊ばず一人電車の見えやすい所に行き、通る電車の名前を叫びながら過ごす日々でした。母はさみしかったな。



こだわりとパニック

この頃から興味を超えてこだわりだと感じられるものが出てきました。電車が好きで電車のおもちゃが増えても、ある1台の電車が見えなくなると大パニック。泣き続けました。好きな車種は同じものを複数台もっていましたが、同じものを代わりに与えてもだめでしたから、とにかくその電車の行方を常に分かっていたいなければ、と私はピリピリでした。2才半位の時突然ヒーターの音を恐がり出しそれから機械音（空調、換気扇など）全てを恐がるようになりました。言葉はオウム返しで会話は成り立たなかったのですが、保育園とか行けばしゃべれるだろうと思っていました。しかし3歳児健診で子ども相談センターを紹介され、その頃初めて「学習障害児」と告げられま

した。ショックな気持ちもあったけどどうすうす感じていたこの「不思議さ」に答えが
でたようで、ほっとしました。



かたつむり

幼稚園に入ると興味は虫になり、幼稚園の植え込みでカタツムリを見つけて持って帰るのが日課になりました。本人にとってカタツムリは友達で遊び相手だったのかなー。

カタツムリと同じ目線で遊び多分自分もカタツムリになっていたんです。相変わらずこだわりがあったのでお気に入りのカタチャンを特に大事にしていました。カタツムリには申し訳なかったですが、次はどんな小さいのをとってくるんやろーと私も少しずつ楽しみになっていきました。止めても仕方なかったです。というか止まりません。

中学生になった今も、彼は虫や魚が大好きで、家の中はカゴと水槽だらけです。彼の気持ちの支えになっているように思います。最近、土を掘ってセミの幼虫を探し出し、家に持ち帰って成虫になる様子を楽しんでいます。こんなふうに自然の面白さを私にもおすそわけしてくれる我が子にちょっぴり感謝する私です。



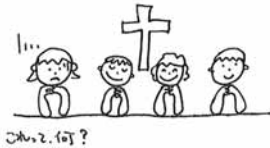
STORY▶E

幼少期、言葉は聞くと理解しているようなのに話さず、ジェスチャーや表情で表現していたEさん。

読み書きに困難があっても、ストレスで難聴になっても、持ち前の明るさで乗り切るがんばりやさん。

episode 1

カトリック系の幼稚園だったため、毎日お祈りの時間があった。入園時、それまで体験したことのないことだったので、理解できず大きなストレスとなり、お腹が痛くなるなど不調を訴えた。



なに？何？



1 へのコメント

話し言葉のやりとりもうまく出来ない頃だったため、理解できないことがたくさんあったようだ。重度の便秘になったり、幼稚園から帰宅後に朝まで眠り続けることもしばしばだった。それでも周りの子のまねをし、手順を覚えていった。

episode 2

お気に入りの犬のぬいぐるみを、肌身離さず持っていた。親にべったりでなかなか離れられなかった子だったが、これが少し離れられるきっかけになった。

でも置き忘れるなどして少しでもぬいぐるみがないとパニックになり、奇声をあげ泣き叫んでいた。

この頃ちょうど妹もできて、なおさらぬいぐるみを離さなくなった。



2 へのコメント

毛布やタオル、ぬいぐるみを持ち歩きたがる子もいる。単に安心のためのアイテムという以上に思いいれが強く、随分長いこと大事にしていた。



episode 3

飼っている犬を本人としてはとても大事にしているが、力加減がわからずどうしても強く抱っこしてしまう。犬はいつも辛抱強く耐えている・・・

3 へのコメント

LDの人の中には、不器用な人も多い。ちょうど良い手加減というのが難しい。人の肩をポンと叩いても、相手から「痛い!」といわれることも。

episode 4

買い物で、多くの物の中からひとつだけ選ぶというのが非常に苦手で、パニックになる。レストランでのメニュー選びも苦手で、選べなくてたくさん注文し過ぎることもあった。



4 へのコメント

選択肢が多すぎてよく把握できなかつたり、食べられる量と結びつけて考えられなかつたりする。大きくなってからは、食べるメニューを、ファミレスならハンバーグセット、喫茶店ならケーキセット（チーズケーキかモンブラン）、お友達と一緒にならお友達と同じもの、と決めてスムーズに注文するようになった。



「頑張りやのEさんについて」

LDの人は、努力したり頑張ったりするためのエネルギー源（成功体験や良いイメージ）が不足しがちで自信も持ちづらいために頑張れないことが多い。Eさんは「お友達と同じようにしたい!」という同調性が高く、読み書きの困難から学校の授業ではわからないことが多くても、とても頑張る。

人まねをしない？

1歳になるまで特に問題なく、身体的遅れもありませんでした。ただよく泣く赤ちゃんで、病院を退院してからあまり寝ないので、今で言う育児ノイローゼになりかけました。とにかく音に敏感な子どもでした。初めての子どもということで、周りからは「親の神経質さが原因よ」と言われました。1歳健診の時、他の子どもに比べて人まねをあまりしない事に気付き、そのことを言うと「3ヶ月後また来てください。」と言われました。

ことばがでない！！

1歳を過ぎた頃、熱を出すと、かならず熱性痙攣を起こすようになっていました。それに気をとられていて、気が付かなかったのですが、娘はことばを話していませんでした。1歳半健診でことばの遅れを伝えても、「お母さん、子どもにもっと話しかけてください。」「絵本の読み聞かせもして下さい。」と保健師さんに言われただけでした。ただ娘は表情も豊かで話していることは理解していました。2歳を過ぎた頃になるとことばの代わりにジェスチャーをしていました。その仕草が可愛かったのを覚えています。もちろん本の読み聞かせも毎日し、一緒におままごとをして遊びました。同年代のお友達との交流も持ちました。でもことばは出てきません。ことばは自然とあふれ出るものと思っていたので、この頃から漠然と何かが違うと感じていました。

パニック？

3歳健診の頃、ことばでの会話は単語の羅列でした。それもパパ・ママ・痛いなどの簡単なものでした。それでもコミュニケーションは取れたので、親子の間で困ることはありませんでした。この頃から初めての場所や人に対して、すぐ警戒するようになりました。親から離れず泣き喚くようになっていました。ですから健診の時は大変でした。質問されても硬く表情をこわばらせて下を向いたまま。指さしの問題では、名前は答えられないけれど、絵を指さすことはできました。積み木の問題では、見本の形が作れず不安な表情をしていました。この時保健師さんから、K市の発達相談を

受けるよう勧められました。

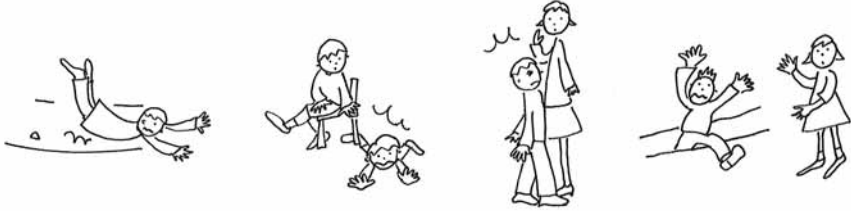
学習障害『LD』と判って・・・

娘のアンバランスさが何なのか探し求めてきました。それが判ったのが小3の時、そして県での審議を受けて判定が出たのが小5の時でした。本当に長い道のりでしたが、これで前に進める！と思ったものです。そんな娘も高校受験。何事にもめげずにチャレンジし続ける娘に、こちらが頑張る勇気ももらっています。そしていろんな事で成長させてもらいました。だから、これからは少しでも同じ悩みを抱えている親御さんの手助けになれば・・・と思っています。



STORY▶F

二つ以上のことを同時に考えることが苦手なFさんは、体当たりで物事をとらえていく実践型。注意のコントロールが利きにくく、じっくり読みたり聴いたりせず、大事なポイントを聞き逃し勘違いして動いてしまう。



episode 1

歩き始めは早かったが、とにかくよく転んだ。障害物にしょっちゅうぶつかる。保育園の先生に「この子は生涯ケガをしやすいためから気をつけて」と言われた。



1 へのコメント

LDの中には、不注意なところを併せ持つ人や、体の使い方がうまくない人も多い。



episode 2

掃除をしてもすぐ散らがる。おもちゃ箱から次から次へおもちゃを出して遊ぶ。片付けも苦手。



2 へのコメント

おもちゃを自由に好きなタイミングで取り出して遊んでいるが、おもちゃのある場所が変わったり止めたりするとやりたかったことを忘れてしまったりする。

物事の全体像をとらえてステップを組み立てることが苦手なため、片付け終わるまでの道のりが遠すぎると、スタートできなくなる。

episode 3

小さい頃は、毎日のように工作をして遊ぶ。そして、創作料理が得意！



3 へのコメント

アイディアは豊富だが、言葉での表現が得意ではない。絵や工作でなら、より自由に自分を表現できると感じていたのだろう。

料理は出来上がりのイメージがあり、それに向かって取り組みやすい。

Fさんの場合自己流でアドリブを入れながら作るので、時には当初の予定とは違うものが出来上がることも。

episode 4

兄弟げんかが絶えなかったのが、あるときを境に、あまり喧嘩をしなくなった。その理由について尋ねると…

「オレと兄ちゃんはなんで仲良くなったかと言うと、オレが大人になったしや。成長してんて。まあ、兄ちゃんも大人になったしな。時々キモいアニメ見とるけど、おえ～」



4 へのコメント

感覚的にことばの意味をとらえて、例えば、湿気が多く、じめじめした日のことを「粘り強い日」と言うなど時に妙なことばのつかい方になる。

自閉症の人の場合は、字義的理解に偏ったり状況に合わない硬い表現で違和感があることがある。

STORY▷G

100回書いても覚えられない英単語が、友達がギャグにしていたところ、一発で覚えてしまう。忘れ物や失くし物がひどく多い。考えることをしゃべることは得意だが、相手の気持ちを考えすぎて、言わなくてもよいことまで言ってしまうこともある。



episode 1

「人生とは」「ゴッホという人は」「北朝鮮の国民の生活は?」「イラクの国民は幸せになれるのか?」ニュースで見たこと、実生活とは程遠いことを深く考える。この世の中のすべての人が幸せに暮らせる日を強く待ち望んでいる。

1 へのコメント

テレビの映像などから、年齢に不似合いな苦悩を引き受けてしまうGさん。彼にとっては自分の身の回りのテーマよりも考えやすいテーマなのだろう。

このように万人に優しい彼は、実生活でもトラブルが起きないように、誰に対しても穏やかに接する。

episode 2

何故か高熱が出ると、いつもよりお医者さんにはきはきと上手に体の状態を報告することができる。

2 へのコメント

- ADHDの特徴を併せ持つ子も多く、覚醒コントロールの不具合がみられる。

子育て振り返り記 6

うちは兄弟二人ともがLD(学習障害)です。

人によるとと思いますが、「え～。二人も障害児なんて、大変！」と思うかもしれませんが、案外そうでもないのです。決して楽ではありませんが。

勿論、順番からいって兄から気づき、受け止め、色々ケアを始めて落ち着きだした頃、弟が自ら「俺ってLD？そうでしょ？」なんて言ってきたもんですから、学校の宿題を見てあげた時、「おや？」「やっぱり！」くらいのもんでした。きっと兄がエルデの会に入っていてとても楽しそうだったので、自分も入りたと思ったのでしょう。それでも自らを障害児という小1の子は少ないでしょう。我が家はなるべく障害児という言葉に偏見を持たない様には心がけています。彼の"障害児に対する憧れ"はそういう事も関係しているかもしれません。しかし、上の子を障害児と認めるのには時間が掛かりました。それは、この子がどんな障害かわからないというところにかんがりの不安があったのです。

自閉症の本を読みあさったり、新聞のLDの記事を読んだり、インターネットで調べたり、医療機関にも掛かりました。「大丈夫」と言われたり、「こういう子はお母さんが相談する所が必要」と言われたり。なんか、どれもスッキリとする返答ではなかったように思います。ただ、今、言える事はこの子にどんな診断が付こうと「この子はこの子でしかない。苦手な所は、専門的なケアをしていこう」という事です。

私も家族も育てていく上で困る事は多かったのですが、まず、こういう点では、どんな方法、関わり方があるか？どうしたら少しでも、子どもも家族も楽になるか？を探していたので、専門家の意見はとても貴重でした。

上の子が他の子と違って、何かおかしいなと感じ始めたのは、2歳前くらいでしょうか…。

やはり、言葉の遅れがありました。ただ、その頃の私は「この子は言葉が遅れている」という風には思わなかったのです。今にして思うと色々な発達面で遅れがあったと見て間違いないはずなのですが、私は"遅れ"という言葉がその時のあの子にしっくりとした表現に感じずにいました。"遅れ"というより"言葉のおかしさ"人との関わりのおかしさ"彼の物事の学び方や情報の処理の仕方が普通の子とは違っていた様に感じるので。そんなちょっとした事を今、振り返ってみる必要があるかなと思います。当時、見えなかった事、納得いかなかった事、何か感じていたけれども、上手く人に説明出来なかった事がいくつかあります。それを、ただ流さずに思い出して、整理する。そして一つ一つを分析していくと、この先、もっと、彼を理解していけるのではと考えます。"言葉のおかしさ"について具体的にいうと、語彙はあるけれど、それが活用されない。話しかけても無視される事が多く、「耳が聞こえないのかな？」とか、「自閉症なのかな？」と思う事がありました。

TVやビデオが好きで、2時間でも3時間でも見ていました。アンパンマンなら戦いのシーンでお気に入りの掃除機の棒や何かを持って盛り上がり、ドキュメンタリーや映画なら感動の涙を流したり、私はずっと不思議でした。

2歳頃から「パンを買いに行こう」と言うと目の前にパンがないとパニックになったり、「ソリにのるから…」と誘うとやはり同じ。そんな子が、どうしてビデオやTVを長時間、見られるのだろうか。2歳半の時、子ども相談センターで専門相談の先生と面談し、写真を使ってコミュニケーションを取る方法を教えて貰いました。パン屋へ行くならパン屋の写真を見せて「パン屋へ行こう」と言うのです。結果、大成功でした。今から思うと暴れるとやはり大変なのですが、パニックや暴れは、成長の証なのでしょう。きっと「パン」という言葉と自分の体験が繋がったのでしょう。それまでは「パン買いに行こうね」と言っても無反応だったのに、解ったから、騒いだのでしょうか。ただ、普通の子は、なぜ暴れないのでしょうか。きっと、聞き取り方が違うのでしょうか。うちの子は「パン」と言うと「パンを食べる」だったのかもしれませんが。あるいは「パンを食べておいしい」だったかもしれません。

アドバイスを受ける前まで、私の苦肉の策は「不必要な事は言わない」でした。黙って、靴を履かせ(そう言えば自分から靴を履こうとしなかった)「ソリ」と言った瞬間にソリに乗せ、パン屋の前で「パン買おう」という具合でした。アドバイスの後、一旦、

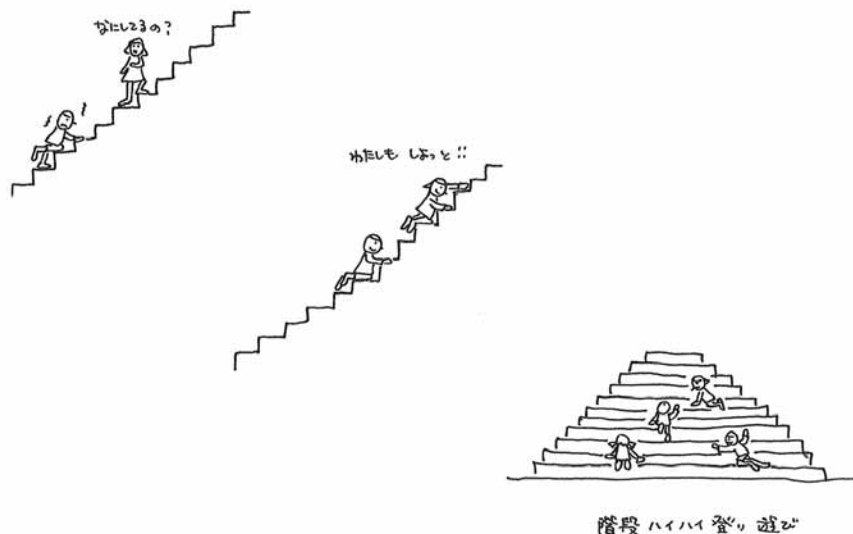
パニックは減ったかの様でしたが、今度は別の事で頻繁にパニックを起こす様になりました。3歳は過ぎていたかと思います。横断歩道を渡ろうとして信号が青から赤に変わるとパニック。ビデオが終わるとまたパニック。おもちゃが壊れるとパニック。「あーあ、壊れた」とか「もう、おわり」とかいう言葉はこちらから使えませんでした。「～がない」等のマイナスと取れる言葉も、いつも引き金でした。今でも彼の苦手なのですが、その頃は、物を探すという事は全く出来なかったのです。

そして、同時期、物が壊れるシーンや事故の場面をひどく怖がりました。「コワイ…」という言葉が増えてきました。一時期は体験によって「こわい物」が増えていった様にも思います。幾つか例を挙げると、高所、車の廃棄置き場、吹き抜けの建物の中、らせん階段、隙間のある階段等です。これで、暴れる訳ではありませんが、恐怖で必ず、腰を抜かしてしまうのです。



親は「これが一生続くのかな…」と不安でしたが、最初の幼稚園で不登園になり、次の幼稚園に入園した時、うちの子が階段を這って登る姿を友達がまねるのを見て、私は、大きな声で笑えたのです。これは想像なのですが、普通は身体に障害のない子が、いきなり階段を這って登ったら驚くのではないのでしょうか？でも、ここの子ども達は違っていました。ここの園は階段自体が遊び場であり、這って登ろうが滑って降りようが遊びの時は自由なのです。（勿論、危険な時や遊びは厳しく注意されますよ）だから、うちの子が少々、笑顔はなかったにしても階段を這って登っているのはあたりまえの事として理解されたのです。車イスを使っている子どももいて他の子と一緒に床に寝転がっていたりしました。本来、子どもは床や地面に寝転がったりして遊ぶのが自然なのでしょう。私はこの幼稚園を訪れたときから、目の中に自然に飛び込んでくる光景を受け止めていたので、うちの子が階段を這って登るのを他の子が真似た時、

「からかって」とか「ばかにして」とは見えなかったのです。実際、その子らは「おもしろそう、ボクもやってみよう」とか「心配なの？アタシもアンタに付き合っ
てあげる！」という気持ちだったと思います。"大人の目から見ると、とても残酷に見える
子どもの行為ももしかしたら全く見当違いかもしれない"と考える様になりました。



また、4歳近く、園長先生から「彼は、こわい事でも皆と付き合っているよ。」と聞き、彼のこわい物に対する親の心配は、かなり薄らぎました。

こうやって振り返ってみると、私は母親として子育てをしていたのだろうか？と疑問を持ちます。歩き出す頃から、彼との生活は「母親だったらこうする」が全く通用しない世界になっていったからです。だから、「育てた」というより、「一緒に生きてきた」という感じがします。もしかしたら、よくいう"子に育てられた"または、「育てられている」のかもしれませんが。今回は現在中1の兄についての振り返り記を書きました。彼が小5の時、自分の障害について受容が始まったように思います。ある時、私が研修で「あなたの全部が障害ではない、一部分が障害なのだ…」という言葉聞いてきて、彼に聞かせると、彼は、きっぱり、「でもね、その一部分をコントロールするのが、

難しいんや」と言い切りました。その時、改めて、私は彼が生きてきた11年間を本当に理解していたのだろうかと考えました。

私の場合、最終的に子どもにとっても親にとっても良い専門家の先生方に出会い、とてもラッキーだったと思います。しかし、そこに行き着くまでは、少し、時間が掛かりました。私達親子が体験した事や感じた事を公表する事で、その時間が短くなる事を期待しています。また、今年4月から個人情報保護法なるものが施行されましたが、子どもと、障害についてオープンにしていくメリット、デメリットについて話し合っています。

おかしな結論になりますが、メリットを多くするためには、なるべくオープンにする方が有効だと思います。隠しては理解は深まりません。しかし、発達障害児の一人一人の人生がかかっています。どうしても、慎重にならざるを得ないのも事実です。

ここは、私も子どもも葛藤するところです。周りの理解を得るといのはやはり簡単ではないという事です。それでも、子ども達、個人を守りながら、障害について専門家と共に研究し、学んで、それを世の中に公表していくのが私達親の努めだと思います。

STORY▶H

長いお話を聞いて理解することが苦手で、授業中は知っている単語が聞こえると、授業の流れに合わないけれど自分の知っていることを勝手に発言したりする。要点をまとめるのも苦手。

episode 1

幼稚園の年少のころ、砂場での遊びは落とし穴作りばかり。



1 へのコメント

道具を使ってままごと遊びなどをするよりも、砂場をつかった遊びはイメージがしやすかったのではないが。落とし穴は単純作業で作りやすいし、成果へのモチベーションも高くて楽しかったと思われる。



episode 2

エルデの会の他の子のお母さんに、「梅干について」演説をする。



2 へのコメント

図鑑や本でいろんな知識を得ていて、一方的に知識を披露することが多いHさん。与えられたテーマやお手本からは作文が書き出せなかったり、「道路標識を調べよう」という課題は例を提示されてもできないが、自分の興味のあることから連想していくパターンだと言葉も浮かびやすく話しやすいようだ。



episode 3

とにかく物知り。ある日のエルデの活動中に支援者の先生相手に演説をする。聞いてもらっているととても満足をし、言い切ったあとに少し陶醉。



3へのコメント

羅列的でオチのない話を一方的にするので、普段なかなか話を聞いてもらえない。自閉症の人の「一方的な語り」とは異なり、聞き手との感情共有を求めているのだが、その一生懸命さから余計に一方的になる。

金沢エルデの会は、LDと診断された子どもたちとその親、専門家(学校心理士、言語聴覚士)、支援スタッフ(教員、学生など)で組織、構成されています。主な活動は、塾、小集団活動、ケース検討会などを定期的に行っています。

詳しくはHPでどうぞ！ <http://elde.kanazawa.st/>

STORY▶Mother H

手がかからない……

1歳を過ぎるまでは、あまり泣かず夜は良く眠り、ご飯もちゃんと食べて大きく育っていましたので特に心配はしませんでした。ただ、今思うとあまり自己主張が無く何を考えているのかわかりにくい子どもでした。何がしたいのか、何が嫌で泣いているのか判らないことが多かったのです。

ちょっと遅いかな……

一歳後半になり、家の外で同年齢の子ども達と関わるようになるうちに、言葉や体の動作の発達が遅いと感じ始めました。出てくるのは単語ばかりで文章にならず、何より自分の気持ちを言葉で表すことが無かったのです。公園では遊具のはしごを昇ったり段差から飛び降りることができず、走ることも全くありませんでした。他の子と関わらず、一人で砂場で電車や車で遊んでいるばかり。次第に「なぜこの子はこんな風なの？育て方に問題があるんだろうか？」と考えるようになりました。

集団に入ると特徴が浮き彫りに

幼稚園に入ると、言葉での表現が苦手なために友達を叩くなど、トラブルが絶えませんでした。どうしてケンカになったか簡単な理由を説明することも出来ません。また皆と一緒に動く事が苦手で、ダンスや体操が出来ません。先生のお話を集中して聞いていられないので、次に何をするのかわからずぼーっと一人で絵本を見ています。着替えやお道具の用意も何度も注意されてやっとしていました。家ではそれなりに身の回りのことを躰けているつもりでしたが、できていませんでしたので心配でした。

一方で知識欲は旺盛。人に質問したり、テレビや絵本で仕入れた知識を一生懸命話します。町で出会った知らない人にも、相手が聞いていなくても構わずにどンドン話しかけます。嫌がられてしまうのですが、それがなぜだか理解できない様子でした。

本人も気づき始めて、傷つく

年齢とともに少しずつ自分の気持ちについて話すことが出来るようになり、親の私にもその時々には彼がどんな思いでいるかわかるようになって来ました。しかし小学校に上がっても基本的な傾向は変わりませんでした。学校の授業を受けるには、集中力や周りの反応を感じ取る能力の無さが大きく災いしますので、息子のこれからを思うととても戸惑い、不安に思いました。クラスメートにも色々言われて、泣いて帰ってくることもありました。

障害を持つ子供の保護者と出会って

息子が7歳（小学2年）の頃、自分の子育ての悩みについて発達障害のお子さんを持つ保護者の方達と話をする機会があり、「何らかの障害かも。一度相談に行ってみては？」と勧められました。専門相談の先生に話を聞いていただき、「学習障害」と「注意欠陥多動性障害」であることがわかりました。ただやみくもに「躰けよう」「普通にさせよう」という考えで息子に接するより、まず親である自分がしっかりと子どもを理解し、味方になり、どんな工夫をしていったら彼が生き生きと過ごすことができるか一緒に考えていきたいと日々考えています。



STORY▶I

言いたいことがすぐ出てこず、「えっと、えっと、1だったらお好み焼き」と話しているうちに皆の話題は次に進んでいる・・・ということもしばしば。いたずらも許容範囲を超えてもまだ気づかずに続けてしまい、1人だけ叱られることに。自家中毒にもなりやすい。



episode 1

服がちょっとだけ濡れたり、靴に少し砂が入ったというだけで、その場から動けなくなる。



1 へのコメント

感覚過敏な部分も持っているが、それよりもいったんそういう状態になると、対処ができなくなってしまう。

episode 2

服や下着の、前後や裏表をしょっちゅう間違える。また靴も左右逆に履いていることが多い。そのことに自分では気がつかない。

2 へのコメント

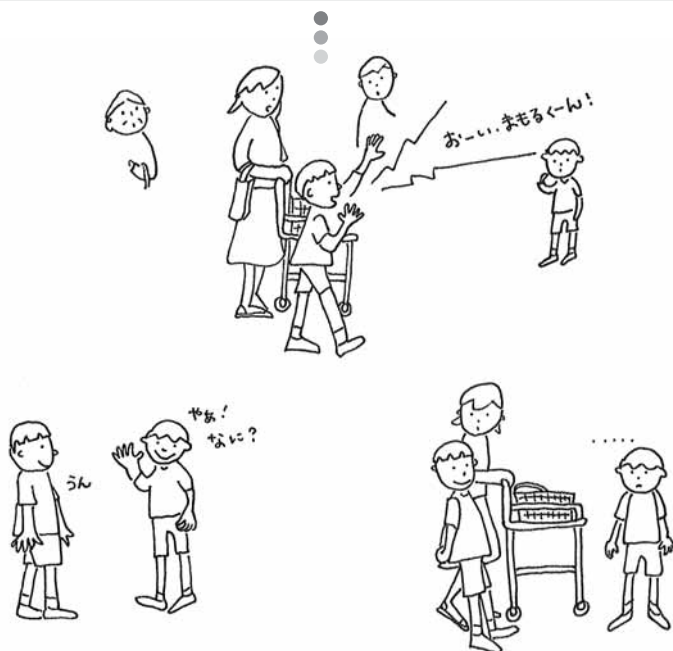
上下左右などの空間認知が苦手であり、またとても不器用である。お財布にお札を入れるという行為だけでもすごく時間がかかり、レジで後ろの人をたくさん待たせてしまう。

「服を着る」ときに同時に気をつけなくてはならないことが抜けてしまう。

episode 3

スーパーで同級生に出会い、「おーい！〇〇くーん」と周囲がびっくりするほどの大声で呼びかける。

相手は驚きつつ返事をしてくれるが、本人は返事をしてくれたことに満足し、その後の会話が續かない。相手の子は肩透かしをくった様子で困惑していた。



3へのコメント

ひそひそ声が保てなかったり、状況に合わない大声を出してしまったりと体の使い方のコントロールがうまくいかない。また呼ばれた相手とやりとりをするところまでは見通せていなかった。

相手と会話でやりとりをするということが、よく理解できていない。微妙なニュアンスも伝わらないことがある。自閉症の人が微妙なニュアンス、文脈の違いによる意味の違いの存在になかなか気づけないのとは違い、そういうニュアンスが理解できるときもあるが、情報がうまく取り込めないために誤解してしまう。

STORY▶Mother I

なんとなく育てにくい子

現在小2のわが子の乳児期は、まとまった睡眠をとってくれませんでした。夜泣きもひどく、毎晩散歩やドライブをしていて、私はいつも睡眠不足気味でした。

1歳6ヵ月検診で言葉の遅れを指摘されましたが、早生まれだし、男の子だし・・・とっていました。2歳を過ぎても二語文が出ず、福祉健康センターの方から、発達に心配のある子どもの親子教室に誘われ、月1度参加しました。場所見知りや人見知りのない子だったので、そこでは、楽しく遊んでいました。

3歳になり近所の保育園に通い始めましたが、毎朝行き渋りがひどく、遅刻や欠席もしばしばでした。お友達から2テンポ遅れ気味な子でした。年中になっても、園で毎日泣いていました。理由はちょっとだけ濡れた、お友達とぶつかったといった些細な事でした。

家では特定のキャラクターや音に過敏に反応したり、暗い場所を嫌がったりしていましたが、神経質な子なんだろうな・・・とっていました。

彼はどちらかというとおとなしいボーっとした子でした。2歳下の弟は生まれつきの疾患で入院する事があったり、じっとしていない子で体力的には大変でしたが、いつも兄である彼のほうに育てにくさを感じていました。



特定のキャラクターや、大音量の映画、騒々しいボウリング場などが苦手

一番不安だったのは、どうして育てにくいのだろうか、ということがわからなかったからでした。私が神経質になりすぎたのか・・・、育て方が悪かったのか・・・と悩んでいました。

年長になり都合で転園した幼稚園で、先生から彼がもっている困難さを告げられ、とても納得がいきました。彼の持つ困難さがわかると、彼との付き合い方を考えやすくなりました。

年齢が低い間は、はっきり障害とは判りにくかったのかもしれませんが、保健師さんが私の不安や彼の微妙な遅れに気付いて声を掛けてくださったのは幸いでした。

発達の遅れ気味な子のための親子教室に参加し、互いの悩みを聞いたり周囲を気にせず遊ばせられる場があったことは、とてもありがたくホッとできました。就学後も継続してフォローをしてもらえる場がない事が残念です[※]。診断できる機関の紹介や親子教室の定期的な開催などがあれば親の不安の解消の一つになると思います。

注：これらの振り返り記は、2004年4月から3年にわたって、金沢市教育プラザ富樫
幼児相談室と同市内幼児相談室2ヶ所に掲示させてもらったものです。

2005年の発達障害者支援法施行以前に書かれたものも多くあり、現在では上記
のような就学後の支援体制の取り組みも各地域で始まっています。

STORY▶J

読み書きに困難を抱え、複雑な漢字は「耳」できくから「聞」といった意味とつなげて覚えたり、「和」は「ノキロ（くち）」と唱えて覚える。相手の意図に気づきにくい面も持っているが、子ども同士のやりとりに入って似た類の冗談を言って共感を求めたり（単にウケ狙いではない）、何かあったときには大人に気持ちを訴えるなど感情的な交流を求める人である。



episode 1

1歳ごろから、なんでも一列に並べることを好む。玄関に靴がきれいに並んでいるなあ、と思えば、履く向きとは90度違う向きに並べられていた。積木、ブロック、鉛筆、箸、本など部屋の隅から隅まで並べ、並べ終わると手をたたいて喜んでいた。



1 へのコメント

複雑な形はとらえづらいJさんなので、並びのは単純にわかりやすく楽しかったのかも。一度「すごい」と評価されたことを何度も自分でも手を叩き楽しんでいる。

episode 2

パズル、となりのトトロ、子どもチャレンジのビデオなど、いわゆる「はまる」人。パズルは2歳で100ピース以上のジグソーパズルをこなした。母はそれが恐く感じパズルを隠した。大好きなビデオは2～3回見るとセリフを全て覚えて、ビデオと一緒にセリフを言ったり、演じながらみている。

2 へのコメント

記憶力が良いJさん。同じ台詞そのものが繰り返される楽しさというより、場面場面の登場人物の思いや自分の感情を何度も反芻して楽しんでいるよう。

episode 3

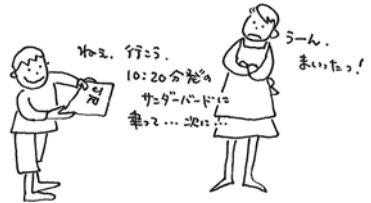
自分で行ってみたい「ポケモンセンター」の場所、交通のアクセスなどインターネットを使って調べる。

日程も万全で親にねだる。行けないことを話すと3日間泣く、いじける、といった行動がでる。お金や周りの予定までは考えられないようだ。頑張って調べたので、家族も調整して旅行へでかけた。終始、上機嫌だった。



3 へのコメント

モチベーションが高いと力を発揮できる。把握できる範囲が限られているため、お金がかかることや周囲の都合などは考えから抜け落ちてしまう。



episode 4

普段、我慢が出来ずに泣くことが多いのに、あまり弱音を吐かずにおやつも自分で用意してひとりで留守番している。ときどき「仕事を辞めて」と言うことがあるが、いつも忙しくしている母に気を遣って優しい言葉をかけたりする。

相手のことを考えることが出来るその優しさに甘えている母だが、本当は寂しいだろうと胸がいたむ。

4 へのコメント

お留守番をするとご褒美がもらえることもあり頑張っている。自分の好きなふうにおやつを用意できる時間も楽しんでいる。LDの人は、自閉症の人と違って、お家の人に学校であったことを聞いてもらいたがるが誤解されたり、思いと違う対応をされるのが嫌で言わない人もいる。Jさんもどうかしてほしいというより、気持ちを受け止めてもらいたい様子。

STORY▶Mother J

難聴だけかしら？

息子は、1歳の誕生日を迎え、断乳が出来た頃に保育園へ入園しました。しかし、集団生活の中次々と病気にかかり、その病気が原因で軽い難聴になってしまいました。発語が遅れ、こちらの言葉がけも分かっているのかどうなのかという不安な日々をおくりました。その後病気が治り、聞こえもよくなりました。専門の先生からは、「小学校に上がる頃にはみんなに追いつくでしょう」と言われ、その言葉を信じていました。

が、保育園の友達の名前を覚えられない、異常な位に難しいパズルを仕上げる、など遊び方や行動に疑問を抱くようになりました。保育園の担任の先生や保健センターの相談できると、良いことだけしか言われず障害をにごされました。しかし母の私は仕事柄、障害児の知識が多少あり、難聴だけではなく障害があると私の中だけで思うようになりました。

障害に向き合うつらさ

息子には2歳上の姉がいます。その姉と同じように息子と関わっても反応がありません。私の知っている自閉症の子の関わり方をすると反応が良く、スムーズに動く息子に、障害を確信していきました。この子のありのままを受け入れていく関わりに、主人が「甘やかすな」と言うようになりました。特に小学校に上がってからは、「学校から帰ったらすぐに宿題をする習慣をつけさせろ」と言うのです。人との関わりが苦手で、勉強について行くのもやっとの息子に、私は、学校から帰ると「今日も1日ががんばったね。一休みしよう」と接していました。それが甘いと、口論の毎日でした。

障害を認めたくない主人と納得させようとする私、私がこの子を守らなくてはという気持ちでいっぱいでした。でも、分かろうとしない主人に、第三者に入って頂こうと専門医に診断を受け、相談員の先生に主人へのアドバイスを頂きました。



家族と学校の変化

診断がでて、相談員の先生は学校にも出向いて息子の事を説明して下さいました。学校は困った子から大切に關わる子へと意識を変えて、様々な配慮を他の生徒に分かちぬように接し、息子の良いところを取り上げて息子が過ごしやすいクラス環境づくりをすすめて下さいました。主人もようやく障害に向き合い、息子のしたいことに付き合う努力をしています。キャッチボールを強要していたのをやめて、プラモデル作りを取り組むこの頃です。姉は「弟だけずるい」と思っていた親の関わりと時々自分だけへのボーナス（物に限らず）の意味を彼女なりに理解し、自分に出来ることを考えているようです。

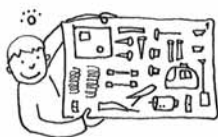
障害に対する正しい知識を周りが持つことで、障害を持つ子どもたちは豊かな成長をはぐくめることを私は感じています。やっと、金沢市や教育機関も発達障害への取り組みがすすんできました。誰もが、常識のように障害を知っていければと願うのです。

STORY▶K

話を聞くこと、読み書き、算数にとっても困難を抱えていて、そのため、対人的な不安もとても強い。幼稚園の頃からずっと集団にはなじめなかった。大好きなラジコンの雑誌で文字を覚えた。

episode 1

手先が器用で物づくりが上手。エンジンやモーターにとっても興味を持つ。



1 へのコメント

文字の形をとらえにくい、音と文字が結びつきにくい、などいろんな問題により読み書きが難しい。形を捉えるのでも、三次元的な空間把握は出来て、図面などの理解は可能なKさん。ただ自分で絵に描くことは難しい。興味のあるものは視覚的に理解する。

episode 2

普段はとても人見知りなのに、好きなラジコンの大会で出会った人とは、たとえ初対面でもラジコンの話で盛り上がる事ができる。



2 へのコメント①

得意なもの、自信のあるものには積極的に取り組むことができる。



2 へのコメント②

向こうから話しかけられても対処出来る可能性が高い話題では安心して過ごすことができる。

episode 3

夏休み作品展の入賞の常連になる。金魚の水槽の浄化装置は、掃除をする、おじいちゃんのために考案したもの。おばあちゃんのためにはお米とぎ器を作った。苦手な掃除より、得意なことと協力をするやさしさ。

3へのコメント

アイデアがユニークだったり、違う視点で物事をとらえたりする。

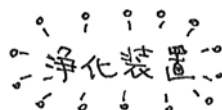
言葉でアピールしづらいKさんの場合、普段の学校の授業ではなかなか発揮できない部分なので、評価もされにくくなってしまふ。



水をきれいにすもの。



汚れないようにする機械！



父親のかかわり

子どもが普通ではないと思い始めたのは、2歳を過ぎた頃でした。3歳になっても自分の名前さえ言えません。でも、大人のしゃべっている意味は理解していたので、ただ言葉が遅いのかなという程度の悩みだったと記憶しています。

幼稚園に入園しても、毎日泣きじゃくり、行きたがりません。通園バスには一年間ほとんど乗れませんでした。団体行動と名のつくものはすべて拒否。運動会、お遊戯 e t c。お勉強も、お絵かきもほとんどなにも出来ません。お友達もほとんど作れませんでした。先生に相談しても、成長が遅いだけで、何も心配いらぬという答えが返ってくるだけ。今のように、発達障害という言葉すらない時代だったのです。（息子は現在17才です）

息子が読み書き障害と判明したのは、小学校2年生のときでした。正直、ほっとしたのをおぼえています。どうして読めないのか？書けないのか？育て方が悪かったのか？毎日のように、父と母とで言い争っていましたから。

病気のようなものと理解し、専門家にみてもらえば治るものだと一瞬安堵したものです。でも、その後すぐに、治る障害ではないこと、多分一生読めるようにはならないことを説明され、呆然としたのを覚えています。学校へも行きたがらない。毎晩次の日が嫌だとパニックを起こす。母親もストレスから鬱状態へと。一家が真っ暗な闇の中へ突き落とされた感じでした。

仕事が忙しかった私も、このままでは家庭崩壊になると思い、積極的に関わるようになったのがこの頃からでした。（異動のない部署に配置がえしてもらい、残業もほとんどなしにしてもらいました。本当に会社には感謝しています。肩身が狭いのはしかたありません）

障害を持って生まれて来た子どもには、何の罪もありません。私たちは、まず、子どもの障害を否定するのではなく、素直に受け入れようと心がけました。障害があっても、なんとか幸せになってほしい。明るい未来を与えてやれるのは、親の私しかいない。そんな思いで10年間がんばってきたように思います。

今は、発達障害者支援法も出来て、行政側も特別支援教育の取り組みが盛んになっ

て来ています。親御さんは、一人で悩まないで、いろんな機関がありますので相談することをお勧めします。大概が、相談者はお母さんだと思いますが、お父さんも一緒になって悩み、障害とわかったら、家族全員でその障害を受け入れ、子どものために何が出来るか、なにをすれば子どもの力になれるのかを考えてあげてほしいと思います。子どもを責めないで下さい。

私は、下の子どもも同じく読み書き障害なので、お母さんの負担を減らすため、相談機関へ出向いたり、親の会の活動に出たり、学校との連絡等を自分でほとんどこなしています。

私と同じ事をして下さいとは言いませんが、障害をもった子どもを育てるのが、どんなに大変かを、世のお父さん方も十分理解し、お母さんを助けてあげてほしいと思います。

～あとがき～

そう、あれは会の活動が始まって2年目のこと。子どもたちは小集団活動で夏の合宿の話し合いをしていました。相談、計画などの話し合いは、この子たちの苦手とするところ。話し合いをしてもすぐに脇道にそれます。でもその時はとてもいいアイデアが浮かびました。それは、係り決めをして役割分担をするのに会社のように役職名を持つと楽しいのではないかということです。さっそく「会長」「社長」「社長秘書」「部長」「係長」が決まり、一番年下の子は「平社員」という不名誉な肩書きになりましたが、すんなりそれぞれが係りの仕事をやれたのです。

彼らは学習障害であるが故、情報をうまく取り入れ、整理をして処理できません（普通の人は努力することなくできるのですが）。あんまりあてにならない「勘」に頼り、イメージを作ります。そして、そのイメージはしばしば実態とかけ離れてしまいます。ですので、たいていの人が平気なことがひどく怖かったり、大きな勘違いをしたり、思っていることを相手に伝えるように表現できなかったり、うまくいかなさや大きな不安を感じるようになります。でもそのイメージが「ピンゴ」すると、先ほどの係り決めのようにうまくいくのです。

この冊子を作るにあたり、メインは親の手記なのですが、それよりもそんな彼ららしさをもっとわかり易く伝える方法はないかと考えました。育ちの中で彼らならではのユニークなエピソードをイラストにするといいかも、と思いつきました。見ていただいたとおり、いろいろとありました。その都度親はそんな姿におろおろしたり、あたふたしましたが、今振り返って思い出してみると、どれもがちょっと面白いのです。ただし、渦中にいる本人たちは常にいたってまじめで、正直で一生懸命なのだということを申し上げておきます。

そんな彼らも今は中学生や高校生になり、思春期を迎えています。世の中のテンポと自分のペースとがうまくかみ合いませんが、相変わらず、まじめに正直に一生懸命生きています。不器用ですが、それぞれがとてもすてきな良さを持っています。彼らが生かされる社会はくるのか？いや来てほしい。まだ支援は始まったばかりです。

私たちは願わずにはられません。どうぞ君たちよ、自分を心から好きになって！そしてできないところはサポートしてほしいと言ってほしい。彼らが生き生きと暮らせる社会はきっと誰もが暮らし易い社会であると思います。そして私たち金沢エルデの会もそんな社会に一步でも近づけるように努力します。この冊子が少しでもお役に立てることを祈っております。最後になりましたが助成してくださった日本財団、振り返り記の掲示に評価と快諾をしてくださった、当時の教育プラザ富樫施設長の小村隆さん、また、冊子作成にあたり、丁寧に相談に乗ってくださったアサヒヤ印刷の多田茂さん、時間をかけて監修をしてくださった言語聴覚士の田中早苗さんに心から感謝を申し上げます。

金沢エルデの会 スタッフ、会員一同

～この冊子をご利用になる方へ～

学習障害の理解、啓発の目的で、この冊子の転写、転用は構いませんが、障害理解において誤解等が生じるおそれがありますので、その際は事前に当会までご一報くださいますよう、お願い申し上げます。

STORIES OF ELEVEN CHILDREN

金沢エルデの会の親たちの振り返り記

発行 2007年10月14日

金沢エルデの会

<http://elde.kanazawa.st/>

e-mail:info@elde.kanazawa.st



「このイベントは競艇の交付金による
日本財団の助成金を受けて実施します」